

科 目 名

**建築計画Ⅲ**  
Architectural Planning Ⅲ

(昼間) 2年 前期 2単位 必修  
(夜間) 2年 前期 2単位 必修

秋 元 一 秀

概 要

人間の生活環境は、個別の施設のみで完結することはなく、他の施設及び地域における要素との集合や複合によって構成されており、しかも、個別の施設は既存環境における歴史性や文化性に規定されている面も持つ。ここでは、住居単位とその集合の関係を歴史的及び文化的側面から説明するとともに、現代における住居の集合に対する計画上の現状と問題点について概説する。

学習目標

- (1) 現在の一般的な集合住宅にみられる形態の特徴とその背景を理解する。
- (2) 住棟配置、住棟と住戸の関係、住戸、それぞれのレベルで、集住体としての計画手法を理解する。
- (3) 今後予想される社会において、集まって住むことの意味と集合住宅に求められる課題を思考する。

授業計画

テ ー マ	内 容
① 集合住宅とは	集まって住むことの意味を考える
② 集合の歴史	既存環境の集合性や日本における集合住宅の歴史に関して解説する
③ 近代集合住宅の歴史	産業化に伴う集住体やモダニズムの集住体に関して解説する
④ 日本における近代集合住宅	戦前の集住体や住様式の近代化に伴う集住体と、その後の型系列の展開に関して解説する
⑤ 生活圏	近隣住区理論を通して生活圏の考え方を解説する
⑥ 配置計画	住棟の配置計画を行う上で考慮すべき環境条件やグルーピングの手法に関して解説する
⑦ 住棟計画	住棟のアクセス形式の違いによる計画上の要点を解説する
⑧ 集合と住戸の計画	コミュニティの形成など、集合体として住戸を計画する上での要点を解説する
⑨ 住戸の計画 i	住戸の断面型の違いに伴う計画上の要点を解説する
⑩ 住戸の計画 ii	住戸内の計画を行う上での要点を解説する
⑪ 集合住宅のデザイン	高層住棟、住戸の連続、住戸開口の制約など集合住宅のもつ特徴とそのデザイン手法に関して解説する
⑫ 集合住宅の課題と可能性 i	居住者の多様化と変化に対する集合住宅の計画を考える
⑬ 集合住宅の課題と可能性 ii	居住者参加から集合住宅の計画を考える
⑭ 集合住宅の課題と可能性 iii	高齢化社会、家族形態の変容、地域性から集合住宅の計画を考える
⑮ 定期試験	

授業方法

授業計画に関連する情報をビデオやスライドなどによるビジュアルな資料とプリントを提供し、自ら内容を考える環境とする。必要に応じて、授業の前後に関係する事項の問題を課し、動機付けを行う。

学習到達度の評価

- 1) 授業中における学生への質問により、大まかな理解度をはかる。
- 2) 適宜レポートを課し、理解度を把握するとともに発展学習を促す。

評価方法

授業内の問題及びレポートを30点、定期試験を70点として評価する。

教科書・教材

配布プリント

参 考 書

建築計画教材研究会 編「建築計画を学ぶ」理工図書  
日本建築学会 編「コンパクト建築設計資料集成」丸善

履修上の注意

この講義は住宅の計画・設計を行う上での基礎的知識を教授することから、特に2年後期に開講する「建築設計Ⅰ」を受講する上で必要である。

オフィスアワー

適宜、昼休み(12:00~1:00)に研究室にて講義内容に関する質問を受付ける。

「建築計画コース・建築構造コース」における位置づけ	必修/選択の別	学習保証時間
本科目は、シラバスに記載されている建築学科の学習・教育目標の主としてB1に関連する。	必修	22.5時間